

はじめに

【当事者を取り巻く状況】

- ・ L G B Tや性的マイノリティという言葉が社会一般に広く定着してきている。
- ・ 一方で、理解は十分に深まっておらず、当事者は差別的言動や対応していない制度により、困難を抱えている。

【これまでの取組】

- ・ いわて県民計画（2019～2028）において、多様な生き方が認められる男女共同参画社会の実現に向けた環境づくりを行うこととしており、相談窓口の設置や出前講座など県民への理解を深める活動に取り組んできた。

公務に従事するにあたり、性的指向（好きになる性）や性自（こころの性）に対して必要な配慮を行うことが、男女共同参画社会の実現や人権の観点からも求められている。

1 多様な性のあり方について(p1～9)

(1) 性を構成する4つの要素

(2) L G B TとS O G I

- ・ 性のあり方や性的マイノリティに関する基礎的知識、性のあり方を表す様々な言葉の例

(3) 性的マイノリティの割合について

- ・ 様々な調査から人口の3～10%程度と考えられている。
- ・ 当事者が抱えがちなストレス、国内外の状況等

2 県職員として求められること（P 10～20）

(1) 職員として求められる姿勢

- ・ 性的指向・性自認は一人ひとりの人生に深くかかわる問題
- ・ 多くの県民と接する県職員として、知識を身に付け、理解を深め、行動することは必須

【業務遂行上の心構え】

- 多様な性的指向や性自認に関して正しい知識を身に付け、理解を深めましょう。
- 性のあり方は多様であることに配慮した言動を心掛けましょう。性的指向・性自認に関する差別的な言動や相手を傷つける言動をしてはいけません。
- 性的マイノリティ（L G B T等）の当事者たちが身近にいるのだという意識を常に持ちましょう。見えないだけで当事者は周囲に必ずいるものです。
- 来客対応等において、名前や性別に関する情報は慎重に扱しましょう。
- 担当業務において性的マイノリティ（L G B T等）の当事者が困難を感じることはないか、あった場合は困難を解消・軽減できる方法はないか考えましょう。
- カミングアウトや相談を受けた場合は真摯に受け止めましょう。本人の許可なく、あるいは意に反するようなアウティングは絶対にしてはいけません。

- ア 窓口や電話対応における配慮
- イ 性別記載欄
- ウ 施設等を利用する様々な利用者に対するプライバシーの配慮
- エ 災害時における対応
- オ 各種制度の見直し
- 当事者が抱える困難や思いについて

(2) 自己の偏見や先入観に基づいた言動の点検

(3) 職場環境の点検

- ・ 職場における配慮について、S O G Iハラスメントについて

(4) カミングアウトとアウティングに関する理解

- ・ カミングアウトを受けた場合の対応やアウティング被害の例

(5) 職場内での理解促進について

- ・ 出前講座、L G B T啓発パネルの貸出、いわて男女共同参画サポーター養成講座

3 相談窓口・啓発資料等(P 21～29)

(1) 相談窓口

- ・ 一般向けの相談窓口、庁内のハラスメント対応窓口

(2) 地域のサポート団体

- ・ 県内で活動する関係団体

(3) 啓発資料

【参考：用語について】

■ L G B T

L：レズビアン（女性同性愛者）、G：ゲイ（男性同性愛者）、B：バイセクシュアル（両性愛者）、T：トランスジェンダー（出生時に割り当てられた性別とは異なる性自認の人）の頭文字をとって作られた言葉。性的マイノリティをあらわす総称の一つ。

■ S O G I

性的指向（Sexual Orientation）と性自認（Gender Identity）の頭文字をとった言葉で、全ての性を表す表現。

■ カミングアウト

公にしていなかった性的指向や性自認、戸籍上の性別を、本人が他者に伝えること。

■ アウティング

本人の許可なく、第三者にセクシュアリティを伝えること。アウティングは深刻な被害をもたらす人権侵害であり、時に命に関わることもある。

ガイドラインは岩手県公式ホームページで公開しています。職場内のコンプライアンスの取組や職場研修等で御活用ください。

★ 県HP掲載場所

トップページ＞くらし・環境＞青少年育成・男女共同＞男女共同参画＞男女共同参画について＞性的マイノリティ（LGBT等）について

多様な性のあり方を尊重するための職員ガイドライン



令和3年2月 岩手県環境生活部社会政策女性政策課作成